

2018年8月3日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会の代表者による定期会合の開催

企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会（ASBJ）と米国財務会計基準審議会（FASB）の代表者は、2018年8月1日と2日に、ノーウォークで会合を開催しました。この会合は、高品質なグローバルな会計基準の開発へ向けて連携を深めるために、ASBJとFASBが年に2回、定期的に行っているもので、今回で24回目となりました。

会合では、お互いの活動の最新の状況を確認するとともに、両基準設定主体が関心を有している項目である「仮想通貨」、「のれんの事後の会計処理」、「財務諸表の表示及び開示」、及び「リース」等について議論を行いました。

ASBJとFASBは、引き続き、意見交換を続けていく予定であり、次回の会合は2019年の前半に東京で開催する予定です。

小野行雄ASBJ委員長は次のように述べています。

「今回の会合では、仮想通貨のような新たな経済事象に関連する項目から、継続的に議論をしてきたのれんの事後の会計処理に至るまで、幅広い論点について建設的な議論ができた。国際的な経済環境が目まぐるしく変化し、基準設定主体として対応が求められる新たな課題も生じる中で、このような会合を通じて各論点の理解が深められたことは非常に有意義であり、国際的な会計基準の質の向上に寄与するものと考えている。」

ラッセル・ゴールデンFASB議長は次のように述べています。

「年に2回のASBJとの会合は、発生している論点、進行中のプロジェクト及び最近公表された基準について互いに学び、それらに関する見解を共有する上で、非常に有意義な機会を提供してくれる。それぞれの利害関係者の便益のために国際的な比較可能性を高め、高品質な会計基準を開発するという共通の目標の達成に向けて、このような建設的な議論ができることをありがたく思っており今後も継続していくことを楽しみにしている。」

企業会計基準委員会（ASBJ）について

ASBJ は、2001 年 7 月に民間部門の機関として設立された。ASBJ が開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJ は、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJ は、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJ に関する詳細な情報は、ホームページ (<https://www.asb.or.jp/jp/>) をご参照いただきたい。

米国財務会計基準審議会（FASB）について

FASB は、1973 年に設立された、一般に認められた会計原則（GAAP）に従う公開企業、非公開企業及び非営利組織のために財務会計及び財務報告の基準を設定する独立の民間の機関であり、コネチカット州ノーウォークに拠点を置いている。FASB は、米国証券取引委員会（SEC）により、公開企業のための指定された会計基準設定主体として認識されている。FASB の基準は、各州の公認会計士審査会及び米国公認会計士協会（AICPA）を含む、その他の多くの組織により権威のあるものとして認識されている。FASB は、投資家その他の財務報告書の利用者に有用な情報を提供する財務報告を促進することを意図した、透明性があり、誰でも参加できるプロセスを通じて、財務会計の基準を開発し、公表している。米国財務会計財団（FAF）は、FASB の支援及び監督を行う。詳細な情報は、ホームページ (www.fasb.org) をご参照いただきたい。